

卒業後の私

卒業後の私

迫田綾奈

(平成22年度文学部英文学科卒業)

『先生』になる覚悟

「どんなにきついことがあってもこの仕事をやっていける覚悟はあるの？」

臨時的任用教員の採用面接のときに、一番に聞かれたことです。この『覚悟』という言葉は、教員は本当に大変だという感想を教育実習で持っていた私にとって、想像以上に重くのしかかってきました。それでも、長年の夢を実現させたいと思い、「はい。」と答えたことを今でも覚えています。

生徒を叱ること

私は、鹿児島県内の中学校で期限付き教諭として勤務を始めて平成24年度で2年目になります。教員の仕事は毎日本当にハードです。生徒が学校にいる間は、たとえ空き時間や昼休みがあっても休むひまなどありません。

そのような毎日の中で私が一番に意識していることは、生徒を叱ることです。

働き始めたころは、とにかく生徒に親近感を持ってもらおうと毎日必死でした。しかしその一方で、雰囲気が悪くなることを恐れて叱るべき場面で叱れなかったり、『これぐらいなら・・・』と思って見逃したり、教師として果たさなければならないことから目を背けてしまうことがたくさんありました。生徒に会うことに対してストレスを感じることもしょっちゅうでした。1年目の終わりに担任の先生にそのことを話したら「先生がそうやって躊躇してきたことが、のちにどれだけ生徒の成長に影響していくのか考えるべきだね。」

と言われました。

今まで生徒を叱ってこなかったのではなく、生徒と向き合うことから逃げていたのだと、そのとき初めて自分自身を客観的に振り返り、反省しました。

2年目の今では、毎日その言葉を心にとどめて仕事をするようにしています。いいことは率直に褒め、悪いことは些細なことでも叱る。加えて、自分が生徒と接する中で指導したことや気になったことは一人で抱え込まない。もし自分の指導がうまくいなくても、周りの先生が助けてくれる。そう思えるようになってから、生徒との関係がよくなってきたと感じることが多くなりました。同時に、先生方とのコミュニケーションもスムーズにとれるようになりました。

先生という仕事を通して、生徒を叱ることからさまざまなことを勉強しました。

これからの私

教員になってもうすぐ丸2年が経ちますが、正直に言うと『楽しい』と思ったことはそれほど多くはありません。どちらかというと『きつい』と思うことの方が多いです。それでもこの仕事を続けているのは、生徒のちょっとした成長に感動したり、『先生ありがとう』の言葉でとても大きなやりがいを感じたりすることができるからだと思います。

これからもっと多くの経験を積んで、生徒とともに心から『楽しい』と思える日々を過ごせるようになりたいです。